SAMPLE

特集レポート No. 014

成長する漢方市場の動向と事例

Strictly Confidential

infomart

2017年 6月28日

B to B プラットフォーム 業界チャネル

Copyright(C) Infomart Corporation

はじめに

- 経済発展にともない、志向の多様化は製薬分野にも及んでいる。これまで西洋薬中心だった医薬品市場において、同じ病状でも患者の体質によって処方を変える漢方薬に注目が集まっている

- 漢方薬市場は国民医療費の増加を背景とした薬価下落の影響を受けながらも、ここ10年で成長している市場であり、メーカーの漢方薬の啓蒙努力により市場は発展を続けてきた

- 本レポートでは、漢方薬市場の状況を整理し、今起きつつある変化を紹介することで業界を理解する一助としたい

Copyright(C) Infomart Corporation

本資料の流れ

I. 漢方薬とは

II. 漢方薬市場の現状

III. 漢方薬市場の今後

Copyright(C) Infomart Corporation

漢方薬とは

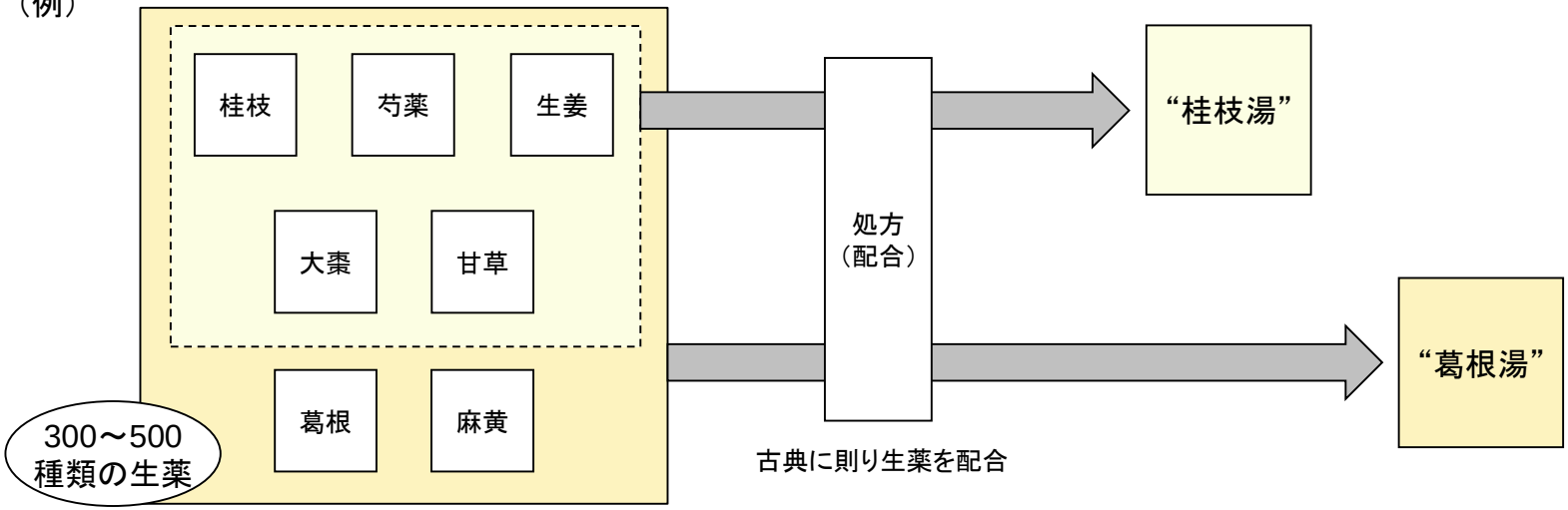
定義

- 漢方薬とは、伝統中国医学の一種で、**日本で独自に発展した漢方医学**の理論に基づいて処方される医薬品

製造方法

- 複数の生薬*を決められた配合比で組み合わせることにより製造

（例）



* 天然に存在する薬効を持つ産物から有効成分を精製することなく体質の改善を目的として用いる薬

- 漢方薬は多成分系の薬剤であり、新薬のような単一成分の薬剤とは異なって後発品は出すことは困難であり、実際に**後発品として認められたものはない**

医薬品としての漢方薬

- 国内では、現在OTC（一般用）医薬品として漢方処方263処方の構成生薬の配合量の規格値や記載可能な効能・効果の範囲等が示されている（ここ5年間で53処方が追加されている）
  - また、原則としてOTC医薬品の漢方薬は第2類医薬品（詳細は後述）に分類
- 処方箋（医療用）医薬品としては、148処方（2015年1月現在）が薬価収載されており、医療保険の対象となる

※医療保険の対象となるのはエキス製剤のみ。エキス製剤の詳細は後述

Copyright(C) Infomart Corporation

漢方薬と西洋薬の違い

- 漢方薬は西洋薬と異なり、患者の体質や病状に応じた処方をおこなう
  - 西洋薬は患者の体質に関係なく、病気に対して処方をおこなう

	漢方薬	西洋薬
薬の成分	■ 多種の生薬を配合	■ 生薬の有効成分だけ抽出したもので、1つの成分のものが多い
種類	■ 煎じ薬、エキス製剤、散剤、丸剤など	■ 錠剤、カプセル剤、シロップ剤、坐剤など様々な種類
薬の選択の仕方	■ 「四診」により、患者の体質と症状を判断して決める ■ 同じ病名でも同じ処方を用いるとは限らない（同病異治） ■ 同じ処方でも、違う病気に用いられることもある（異病同治）	■ 病気の原因を探るための様々な検査を行った結果、病名を決め、薬を選ぶ ■ 同じ病名の人には同じ薬が用いられる ■ 病名が分からない場合や、分かっても治療薬の無いこともある
効き目の速さ	■ 遅効性のものが多いが、風邪薬や胃腸薬では速効性	■ 速効性
効き目の強さ	■ 多彩な症状にマイルドな作用を示す ■ 比較的副作用は少ないとされる	■ 効きめが強く、副作用が現われることもある
症状と薬	■ 症状すべてを配慮して全体として1、2種類の漢方薬を処方するため、薬の数は少ない	■ 1つの症状に対し1つの治療薬 ■ 症状すべてに薬を処方すると治療薬の数が多くなる

Copyright(C) Infomart Corporation

Strictly Confidential

漢方薬の処方例

処方名	生薬処方	効能
安中散	ケイヒ、エンゴサク、ボレイ、ウイキョウ、シュクシャ、カンゾウ、リョウキョウ	・やせ型で腹部筋肉が弛緩する傾向にあり、胃痛または腹痛があって、ときに胸やけ、げっぷ、食欲不振、はきけなどを伴う次の諸症 ー神経性胃炎、慢性胃炎、胃アトニー
		・冷え症、神経質で、胃痛や胸やけのあるもの ー胃腸病、胃炎、胃酸過多症、胃潰瘍による胃痛
葛根湯	カッコン、マオウ、タイソウ、ケイヒ、ケイシ、シャクヤク、カンゾウ、ショウキョウ	・感冒、鼻かぜ、頭痛、肩こり、筋肉痛、手や肩の痛み
		・頭痛、発熱、悪寒がして、自然発汗がなく、項、肩、背などがこるもの、あるいは下痢するもの ー感冒、鼻かぜ、蓄膿症、扁桃腺炎、結膜炎、乳腺炎、湿疹、蕁麻疹、肩こり、神経痛、偏頭痛。
		・比較的体力があって頭痛・発熱・悪寒がして自然の発汗がなく肩や背などがこるものの次の諸症 ー感冒・鼻かぜ・へんとう腺炎・中耳炎・蓄のう症・結膜炎・乳腺炎・肩こり・腕神経痛
		・自然発汗がなく頭痛、発熱、悪寒、肩こり等を伴う比較的体力のあるものの次の諸症 ー感冒、鼻かぜ、熱性疾患の初期、炎症性疾患（結膜炎、角膜炎、中耳炎、扁桃腺炎、乳腺炎、リンパ腺炎）、肩こり、上半身の神経痛、じんましん
芍薬甘草湯	シャクヤク、カンゾウ	・急激におこる筋肉のけいれんを伴う疼痛、筋肉・関節痛、胃痛、腹痛
八味地黄丸	ジオウ、サンシュユ、サンヤク、タクシャ、ブクリョウ、ボタンピ、ケイヒ、ブシ末	・疲れやすくて、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿で時に口渇がある次の諸症 ー下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、かゆみ、排尿困難、頻尿、むくみ
		・疲れやすくて、四肢が冷えやすく、尿量減少または多尿で口渇がある次の諸症 ー下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、かゆみ、排尿困難、頻尿、むくみ
		・疲れやすく、四肢が冷えやすく、尿量減少または多尿で、ときに口渇がある次の諸症 ー下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、かゆみ、排尿困難、頻尿、むくみ
		・疲労倦怠感がいちじるしく、四肢は冷えやすいのにかかわらず、時にはほてることもあり、腰痛があって咽喉がかわき、排尿回数多く、尿量減少して残尿感がある場合と、逆に尿量が増大する場合があり、特に夜間多尿のもの ー血糖増加による口渇、糖尿病、動脈硬化、慢性腎炎、ネフローゼ、萎縮腎、膀胱カタル、浮腫、陰萎、坐骨神経痛、産後脚気、更年期障害、老人性の湿疹、低血圧。
		・下腹部軟弱、腰に冷痛あり、尿利減少または頻数で、全身または手足に熱感あるものの次の諸症 ー慢性腎炎、糖尿病、水腫、脚気のむくみ、膀胱カタル、腰痛、五十肩、肩こり
		・疲労、倦怠感著しく、尿利減少または頻数、口渇し、手足に交互的に冷感と熱感のあるものの次の諸症 ー 腎炎、糖尿病、陰萎、坐骨神経痛、腰痛、脚気、膀胱カタル、前立腺肥大、高血圧
防風通聖散	トウキ、シャクヤク、センキュウ、サンシン、レンギョウ、ハッカ、ショウキョウ、ケイガイ、ボウフウ、マオウ、ダイオウ、ボウショウ、ビャクジュツ、キキョウ、オウゴン、カンゾウ、セッコウ、カッセキ	・腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの次の諸症 ー高血圧の随伴症状（どうき、肩こり、のぼせ）、肥満症、むくみ、便秘
		・脂肪ぶとりの体質で便秘し、尿量減少するもの ー常習便秘、胃酸過多症、腎臓病、心臓衰弱、動脈硬化、高血圧、脳溢血これらに伴う肩こり。
		・脂肪ぶとりの体質で便秘したりあるいは胸やけ、肩こり、尿量減少などが伴うものの次の諸症 ー肥満症、高血圧症、常習便秘、痔疾、慢性腎炎、湿疹

出所：日本漢方生薬製剤協会「医療用漢方製剤」より抜粋

Copyright(C) Infomart Corporation

SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャネル 特集レポート“とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビスネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

Copyright(C) Infomart Corporation